

令和7年度鎌倉国宝館協議会 会議要旨

開催期間：令和8年3月13日（金）	
出席者：薄井委員長、大三輪委員、齋藤委員、瀬谷委員、牧野委員	
議題	意見・回答等
1 諮問事項 (1) 鎌倉国宝館協議会委員長・副委員長の選出について	令和7年11月14日に鎌倉国宝館協議会委員の改選があったため、「鎌倉国宝館条例施行規則」第8条の1に則り、新たに薄井和男委員が委員長、大三輪龍哉委員が副委員長に選出された。
2 報告事項 (1) 令和6年度実施事業の概要について ・収蔵品展の開催 ・特別展「鎌倉旧国宝館展」及び特集展示「鎌倉の伝運慶仏」の開催 ・特別展「北斎のエナジー！」及び関連イベントの開催	<p>(委員)</p> <p>特集展示「鎌倉の伝運慶仏」で、特別協力先の神奈川県立金沢文庫や横須賀美術館と同じように合同製作の図録を国宝館内で販売できなかった理由は何か。もったいなく感じた。</p> <p>(事務局)</p> <p>共通図録は吉川弘文館が発行元で、一般の書店でも販売できるものだったが、当館内で販売可能なものは、基本的に市又は市教委が発行したもののみとなっている。一部を買い上げて販売することも考えられたが、結果としてはしなかった。県立金沢文庫では、ロビーにスペースがあるため、発行元が販売ブースを作り、販売員を派遣する形が取れたが、当館ではスペースの問題もあったため実施できなかった。近隣の書店に取り扱ってもらうことで代替した。</p> <p>(委員)</p> <p>館内にミュージアムショップがあれば販売できたと思うが、直営では設置が難しく、もったいなく感じる。</p> <p>(委員)</p> <p>吉川弘文館で図録を出したことは業界で話題になっていた。会社としても図録の出版に携わったことで元気が出たと聞いている。出版社も紙の本が売れない時代なので、図録を請け負って出版する例が増えている。自分の館だけで図録代を確保するのが難しい場合、博物館側が魅力的な企画を持ち込み、博物館でも一般書店でも販売することができ、互いにいい関係が結べる可能性がある。鎌倉国宝館内でもそういった本が売れるような行政的な工夫を早急に整えるべき。</p> <p>また、特別展「北斎のエナジー！」の関連イベントとして開催した講演会についても、館内には100人が入る会場がないので、外部との連携がしやすいルール作りや改正が必要と感じる。これからの時代に合った、自由度が高く、かつ来館者が参加しやすい・わかりやすいものができるとうい。</p>

	<p>(委員)</p> <p>以前から巡回展を出版社が手配するような例はあるので、役所的な部分を乗り越えて、頭を柔らかくして、出版社発行の図録の販売もできるよう考えてほしい。</p> <p>(委員)</p> <p>国宝館の物販スペースも講演会会場も、広い場所があっただけでいいと感じた。</p> <p>また、展覧会のために各地から資料を借用してくることはとても大切であり、館の努力を感じる。今後も続けてほしいと願う。</p> <p>特別展「北斎のエネルギー！」では、作成した専用の音声ガイドを来館者が聞くことができ、内容をさらに深め、喜んで帰ってもらえるというのはとてもよい取り組みだと感じた。</p> <p>(委員)</p> <p>「北斎のエネルギー！」には1万人以上の来館者があり素晴らしいと感じた。外国人の来館者もきっと多く来たのではないか。音声ガイドは日本語のみだったが、外国人の来館者に向けた説明があるとよかったのではないか。いまは無料で簡単に様々な言語に翻訳できる仕組みがあるので、工夫して提供するようにしてほしい。</p> <p>(委員)</p> <p>国宝館で提供している音声ガイドは、どのようなものか。また職員がガイドの内容を入力できるようなものか。</p> <p>(事務局)</p> <p>来館者が自分のスマートフォンを使って館内の二次元バーコードを読み取り、聞きたいガイドを選択するものである。内容の入力は委託会社が行うもので、職員ではできない。</p>
<p>(2) 令和7年度事業の進捗について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション展「#鎌倉国宝館」の開催 ・特別展「こもんじょ沼」開催と図録の発行 ・特別展「扇影衣香」及び関連イベントの開催 ・鎌倉国宝館保管品の増加 	<p>(委員)</p> <p>特別展「扇影衣香」は非常に濃密ないい展覧会だったと思う。</p> <p>(委員)</p> <p>展覧会に際してこれだけたくさんの貴重な資料をお貸しいただいたというのは信頼の証であり素晴らしい。今後、改修等もあるが、予算を確保するためにも説得力のある要因になると感じた。</p> <p>「#鎌倉国宝館」や「こもんじょ沼」のような、入り口として分かりやすく若者向けの展覧会だったが、何か関連の体験学習のようなイベントは開催したか。</p> <p>(事務局)</p> <p>体験イベントの開催はなかったが、「こもんじょ沼」では、展示解説を「入門編」と「ちょっと専門編」に分けて行い、解説の最終日</p>

には 60 名ほどが集まった。古文書は特に解説がないと分かりにくい分野なので、非常に好評ではあった。体験学習も用意できればよかったが、学芸員の手が回らず、なかなか開催できない状況である。

(委員)

「#鎌倉国宝館」の来館者の感想に「若づくりしている」というものがあつたという話に少々ショックを受けたが、それは、高齢の来館者がこれまでの国宝館のイメージと異なるというマイナスの意味でおっしゃったのか、若い来館者が世の中に迎合しなくてもよいという意味でおっしゃったのかどちらだったか。

(事務局)

Xで見つけた感想で、ポストした方の年齢は不詳だが、後者と捉えている。実際に来館したところ、思ったよりも若々しい要素がなかったことや、展示品が渋いものが多かったこと、そうであればもっと若い来館者が楽しめるものがあるべきという期待に応えられなかったことがそうした発言の要因ではないかと感じた。きれいで新しいものを提示するべきだったのかもしれない。

(委員)

広報費をかけようと思うと、かなりの額が必要になるので、SNSで一般の来館者の力を借りて人目に触れる機会を増やすことはとても大事なことである。これにめげずにぜひ今後も SNS で広がる形を模索してほしい。

(委員)

あまり SNS に迎合したものを見え見えにしてしまうことで鎌倉国宝館のアイデンティティを傷つける可能性もないとは言えない。歴史と伝統のある博物館で、特に渋い作品を扱っている博物館ではその兼ね合いが非常に難しいのも理解できる。

(委員)

大切なのは何を期待されているか、どういう方向に進むかべきかに立ち返ることだと思う。期待されていることに応えるだけが仕事ではないと思うが、鎌倉国宝館の 100 年の歴史に期待されているのは、堅実に文化財を守り伝えることである。それがしっかりとしているから信頼される博物館だと認識されているはずである。その博物館が提供する情報も、「キホン」シリーズの図録のように、信用できるということが大事である。SNS という柔らかい道具を使って堅実かつ誠実な情報を出していくことが大切で、利用者もそれを求めていると思う。例えば、よく刀剣ファンが話題になるが、アニメがきっかけだとしても、その方々たちはかなり真面目に文化財に接していると聞く。文化財のことを発信する側もそういった方向であ

	<p>ってよいと思う。</p> <p>(委員)</p> <p>令和7年は国宝館として攻めた年だったと思う。「こもんじょ沼」や「扇影衣香」は特に学芸員の専門性を生かした展示ができていたのではないかと思う。「こもんじょ沼」では担当学芸員とやり取りをしたが、とても生き生きとしていたことが印象に残っている。学芸員も楽しめる展示は、必ず来館者にも喜ばれる。必ずしも入館者数だけを見るのではなく、マニアや研究者の方にどれだけ深く興味を持ってもらえるかも大事にしてこれからの展示を考えてほしい。</p>
<p>(3) 令和8～10年度事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度特別展「瑞泉寺七百年」の開催 ・100周年記念図書の発行 ・100周年記念動画、ティザーサイト及びロゴマークの作成 ・受付風除室改修 ・外通路の整備 ・本館・新館外壁清掃 	<p>(委員)</p> <p>100年という国宝館と鎌倉の文化財にとって非常に大きな節目が目前に近づいており、これからが大変だと思うが、未来に向けていいスタートが切れるように盛り上げていきたいと思う。</p> <p>(委員)</p> <p>100周年記念動画で、日本語と英語のバージョンがあるとのことだが、中国語も必要ではないか。</p> <p>また、空調設備の改修については、100周年の後に予定されているが、内容によってはもっと早くやるべきだと思うが、いかがか。</p> <p>(事務局)</p> <p>中国語が必要というご意見はもっともであるが、予算上、2言語となった。また、動画は音声ではなく字幕を付ける予定であり、3言語を併記すると少々見づらくなってしまう可能性もあり、今回は中国語については断念した。今後、国庫補助金の活用ができるようであれば、次の動画として中国語や他の言語で作成することを検討したい。</p> <p>また、空調の総入れ替えは数億円がかかる規模のものである。空調機器は前回更新してから20年以上経過しており、市の財政部局とも更新の必要性については話し合っているところだが、数年間の休館を伴い、かつ予算規模が莫大な事業なので、100周年を迎えてからまとめて更新したいと考えている。</p> <p>(委員)</p> <p>空調は博物館の根幹の根幹であり、お金の問題ではないと思う。気候も相当厳しくなってきているので、防波堤として空調は一番きちんと固めなければならない。一般の方からすると空調改修は結果が目に見えないのでなかなか理解しがたいかもしれないが、実はそこが一番大切である。</p>

(事務局)

空調の改修には時間がかかるため、限られた令和10年までの期間では実施できないが、時間をかけて整備していく。空調については現状も十分ではないので、応急処置のような形にはなるが修繕を重ねて対応していきたい。

(委員)

以前にも空調設備に関して職員が非常に苦勞をしていると聞いてきた。博物館にとって空調は非常に大切であることから、早い整備を、声を大にして伝えたい。

また、受付風除室の雰囲気は少々違和感があると思っていたが、資料の中の施工後のイメージを見て、このような形がふさわしいと改めて感じた。

(事務局)

空調については担当内で日ごろ確認しており、温湿度が保てるように目を光らせている。引き続き毎日様子を見ながら、必要な修繕を適切なタイミングで行うようにしたい。

受付風除室は平成2年に取り付けられたもので、開館当初のものではない。建物の価値を損なうような工事にならないように注意しながら進めたい。

(委員)

100周年ティザーサイトを作るということだが、現在の国宝館のホームページは古いと感じていた。この機会に変更するつもりはないか。

(事務局)

現在は市のホームページの一部になっており、美術品を扱う博物館として掲載すべき画像もあまり載せることができないが、職員も見た目は大切だと考えている。まずはティザーサイトを、そのことを補うものとして作成し、その後デジタル化した資料なども掲載できるホームページを立ち上げることを今後の構想として持っている。

(委員)

市役所のホームページの一部である限りはいいものはできない。博物館・美術館というのは、そのアイデンティティが最初から出てくるような形にしないと、いい博物館も隠れてしまうと聞いたことがある。ぜひ改善してほしい。

(委員)

100周年に向けてスケジュールが満載で、これだけのことを並行して準備していくことは非常に大変なことだと思う。休館するとはいえ、学芸員は動き続けているので、どのような体制で進めていくの

か。

(事務局)

現在も学芸員の人数が限られている中で運営しているが、展覧会は学芸員しかできない仕事なので、なるべく学芸員が展覧会に注力できるようにし、事務方はハード整備に携わるといった役割分担で進めていきたい。記念誌についても、例えば建物の改修の記録や市の中での博物館の位置づけなどについては手分けができると思うので、一緒に進めていきたい。展覧会も令和8年度秋の「瑞泉寺七百年」から令和9年度末の建長寺展までは決まっていないので、事業の進捗によって、館内の人員でできる範囲で行うつもりである。

(委員)

鎌倉国宝館は、全国的に見てもそうだが、特に関東地域では本当に象徴的な博物館であり、歴代優秀な学芸員がいる拠点として業界で知られているので、100周年以降もそういった体制を維持する努力をお願いしたい。

また、ティザーサイトにも中国語が必要だと感じる。多言語翻訳にあたって、絶対に間違っはいけない文章と、最低限の情報が得られればよいという部分と、分けることができると思う。いまは AI 翻訳が何十か国語にも使えるので、最低限の情報が自分の慣れ親しんだ言語で見られる状態にするのが大切である。ウェブサイトは刊行物とは違うので、少し柔らかい発想で翻訳やデジタルを活用するとよいのではないか。鎌倉市は特にそういった部分を先導するような町だと思うので、ぜひ挑戦してほしい。

(事務局)

本件を調べる中で、自動翻訳を利用している博物館があることが分かった。ティザーサイトはプロポーザル方式で事業者を選定する予定なので、各社の提案の中に自動翻訳機能を搭載したサイトを作ることが盛り込まれているかも注目したい。

(委員)

仕様書に条件として入れておけば事業者も頑張ってくれるのであないか。ちょうど外国に行く準備をしているときに、そのサイトでは何十か国語も選ぶことができたが、正確性が高くなくとも、最低限の情報が分かれば入国手続きも簡単にできたので、博物館でも場所や会期が分かれば、表現やニュアンスが少し間違っていたとしても問題はないのではないかと思う。

(委員)

自分が海外に行くときも、分からない展示解説などは google 翻訳を利用する。それを思うと、日本語をいかに作るかということも重

要。日本語で伝えたいことをシンプルに書くことができれば、日本語だけでもいいのかもしれない。逆に、日本語が上手く書けていないと翻訳をかけてもうまくいかない。安くやる方法は意外と色々あると思う。

また、ホームページを作る際に気を付けなければならないのは、先々のメンテナンスを考えたとき、写真を一枚差し替えるだけで高額な料金が発生する・発生し続けるような形は避けるべき。ある程度自力でできるようなものにするよう注意してほしい。

(事務局)

ティザーサイトは学術的な情報を掲載するものではないので、分かりやすい文章を心がけ、自動翻訳にもかけやすいよう気を付けたい。自力で更新することについては、自分たちである程度編集ができる CMS 機能を付けようと思っている。予告サイトとして利用するので、頻繁に更新しやすい形にするつもりである。

(委員)

AI 技術も日進月歩なので、どの局面で利用するかという点の見極めもしっかりとして注意して行ってほしい。